

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：モンゴルの風景

Topics

JDS特別セミナーを開催しました

- ▶ JICA留学生ネットワーキングセミナーに、JDS留学生が参加しました
- ▶ JDS留学生が東大和南高校を訪問しました
- ▶ ほっとひと息：フィリピン

JDS特別セミナーを開催しました



ナギ スティーブン R 教授

2023年11月15日、関東圏在住のJDS留学生を対象に、「JDS特別セミナー」をJICE本部で実施しました。本セミナーは、JDS留学生が研究発表を行い、講師からの講評を得ることで、今後の研究に資する学びを得ること、更には大学・国・分野を超えた意見交換によりJDS留学生同士のつながりを強化することを目的としています。

本セミナーでは、8大学から26名のJDS留学生が参加し、その内博士課程2年生2名、修士課程2年生5名の計7名が発表を行いました。JDS留学生による発表と参加者からの質疑応答の後に、セミナーの講師となったナギ教授(国際基督教大学大学院教養学部 アーツ・サイエンス学科)から各発表者への講評を頂きました。

発表者は、仮説の立て方、サンプル選出の留意点、タイトルのつけ方、使用する言葉の定義の方法等、講師から多くの有益なアドバイスを得ることができました。また修士課程1年生にとっては、先輩学生の発表を基に研究の始め方やプロセスを理解する貴重な機会となりました。セミナーの後に設けられた懇親会では参加者同士の会話が弾み、JDS留学生同士及び講師とのネットワークを広げることができました。



プレゼンテーションを行うJDS留学生

本セミナーについて、参加者からの評価は高く、「多くのことを学んだ」「とても参考になった」といった感想が寄せられ、セミナーの継続的な実施を望む意見も多く寄せられました。

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS The Project for
Human Resource Development
Scholarship

JICA留学生ネットワーキングセミナーに、JDS留学生在が参加しました



JDS留學生の様子

2023年12月20日～22日の期間に、JICA留学生ネットワーキングセミナーが開催され、2023年度に入学したJICA留学生（長期研修員・JDS留学生）約630名が参加しました。JDS留学生にとって、400名を超える長期研修員と交流することで、JDS以外のJICA留学生とのネットワークを広げることができました。

本セミナーは、2023年夏以降に来日したばかりの留学生達が、JICA留学生として期待される役割として、母国のリーダーとして貢献するため、留学期間中の心構えと取り組むべき課題を理解すること、及び日本での留学生活に適応できるよう、彼らにとって異文化である日本の文化や社会を理解することを目的として実施されました。

本セミナーでは、2日目(12月21日)に外務省国際協力局局長とJICAの理事長から、JICA留学生への期待と激励の言葉を頂くことにより、留学生たちは期待される役割を再認識する機会となりました。また、先輩留学生による日本留学の経験を踏まえたアドバイスや、臨床心理士による異文化理解ワークショップ、ハラスメント防止講座を通して、日本での生活に適応する方法を学ぶことが出来ました。

さらに3日目(12月22日)には、地域別のセッションが実施され、JICA留学生と各地域を担当するJICA職員との間で意見交換を行い、ネットワークを作る機会となりました。

JDS留学生在が東大和南高校を訪問しました



自国の文化を紹介するJDS留學生

2023年12月18日、関東圏内の筑波大学大学院や東洋大学大学院等に留学するJDS留学生13名(スリランカ、モンゴル、ケニアを含む7カ国の留学生)と一橋大学大学院等に留学するJDS中国*の留学生2名が東京都の東大和南高校を訪問し、国際理解講座を通して高校1年生と交流を深めました。

(*JDS中国：外務省の中国若手行政官等育成支援事業)

留学生は、準備したスライドを使った説明だけでなく、民族衣装を着用したり、楽器の演奏をしたり工夫して自国の文化を紹介し、高校生たちは初めて知る各国の文化の特徴や日本との違いに驚いた様子でした。

また、高校生たちも日本の歌や遊びを披露したり、茶道部で抹茶をふるまうことで日本文化を紹介し、積極的に留学生との交流に参加している様子が印象的でした。高校生・留学生にとって、お互いの国の文化に触れる貴重な機会となりました。



茶道部で抹茶をいただく留學生たち



フィリピンにはスペイン植民地時代の影響を受けた「メリエンダ」という文化があります。これは午前10時頃と午後3時頃のおやつタイムのことを指し、メリエンダの時間になると路上やオフィスに食べ物を売りに来る人がいるそうです。今回はJDSフィリピン事務所で働くJICE職員に、メリエンダでよく食べられるおやつを3つご紹介頂きます！

「タホ」

温かい絹ごし豆腐に黒蜜をかけサゴ(フィリピン風タピオカ)をトッピングした、朝ごはんとしても大人気なスイーツ。程よい甘さと温かい豆腐が癖になります。路上やモールでよく豆腐が入った大きなバケツを担いだタホ売りのおじさんを見かけます。



「ルンピアン・トوغ」

お肉の代わりに緑豆もやしをふんだんに使った揚げ春巻きで、人参、玉葱等お好みの野菜と一緒に包んだヘルシーな食べ物。前菜としてもよく出され、程よく酸味のある甘辛いソースにつけて食べると美味しさ倍増です。フィリピンでは甘いものが多いですが、このような食事系スナックも人気があります。

「トゥロン」

バナナに黒砂糖を加え、果物の自然の甘みとパリッとした食感が美味しい揚げ春巻きです。写真は「ウベ トウロン」(ヤムイモの一種)と「ランカ トウロン」(ジャックフルーツ)が入ったトゥロンで、バナナとの相性が抜群で、より甘さが感じられるおやつです。



JDSフィリピン 海外業務担当 清水柚奈

JDS 3つの特徴

1

行政官限定事業

※一部例外がございます

2

6,030名 22カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2023年度までの人数

3

大臣・局長級を輩出

対応国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、ミャンマー、フィリピン、キルギス、
タジキスタン、スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、
モルディブ、ケニア、セネガル

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生受入支援事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

元日に発生しました能登半島地震により亡くなられた方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

幸いにも、避難までいたるJDS留学生はいませんが、北陸地方で研究している留学生の中には、余震が続く中で研究に向かっている方もいます。当センターではこういった留学生に寄り添い、引き続きしっかりとサポートを行ってまいります。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org